

阿部俊子

# 伊勢物語 (下)

全訳注



阿部俊子（あべ としこ）

1912年生まれ。1937年東京文理科大学国語学  
国文学科卒業。国文学（古代）専攻。学習院  
名誉教授。文学博士。現在、大正大学教授。  
著書『校本大和物語とその研究』『歌物語と  
その周辺』『大和物語（校注）』など。

---

## 伊勢物語（下）

阿部俊子

昭和54年9月10日 第1刷発行

発行者 野間省一

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112

電話・東京(03)945-1111(大代表)

振替・東京8-3930

装 幀 蟹江征治

レイアウト 志賀紀子

印 刷 廣済堂印刷株式会社

製 本 加藤製本株式会社

© Toshiko Abe 1979

Printed in Japan

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。

---

0193-584157-2253(0)

(術E)

## 伊勢物語（下）



## 目次

|    |    |
|----|----|
| 凡例 | 13 |
|----|----|

## 伊勢物語 (下)

|     |                             |    |
|-----|-----------------------------|----|
| 七十一 | ちはやぶる                       | 17 |
| 七十二 | 大淀 <small>おほいづみ</small> の松は | 19 |
| 七十三 | 目には見て                       | 20 |
| 七十四 | 岩ねふみ                        | 22 |
| 七十五 | 大淀の                         | 24 |
| 七十六 | 大原や                         | 28 |
| 七十七 | 春の別れを                       | 32 |
| 七十八 | あかねども                       | 36 |
| 七十九 | 千尋 <small>ちひろ</small> ある影を  | 41 |

|     |         |     |
|-----|---------|-----|
| 八十  | 濡れつつぞ   | 44  |
| 八十一 | 塩竈に     | 46  |
| 八十二 | 春の心は    | 51  |
| 八十三 | 草ひき結ぶ   | 61  |
| 八十四 | さらぬ別れの  | 68  |
| 八十五 | 雪のつもるぞ  | 72  |
| 八十六 | おのがさまさま | 76  |
| 八十七 | つげの小櫛も  | 78  |
| 八十八 | 月をもめでじ  | 87  |
| 八十九 | 人知れず    | 89  |
| 九十  | 桜花      | 90  |
| 九十一 | 春のかぎりの  | 92  |
| 九十二 | 棚なし小舟   | 94  |
| 九十三 | あふなあふな  | 95  |
| 九十四 | 秋の夜は    | 98  |
| 九十五 | 彦星に     | 102 |

|     |              |     |
|-----|--------------|-----|
| 九十六 | 木の葉ふりしく…………… | 104 |
| 九十七 | 老いらくの……………   | 109 |
| 九十八 | わがたのむ……………   | 110 |
| 九十九 | 見ずもあらず……………  | 113 |
| 百   | こは忍ぶなり……………  | 116 |
| 百一  | 咲く花の……………    | 119 |
| 百二  | そむくとて……………   | 124 |
| 百三  | ねぬる夜の……………   | 126 |
| 百四  | 世をうみの……………   | 128 |
| 百五  | 白露は……………     | 130 |
| 百六  | 竜田河……………     | 132 |
| 百七  | 涙河……………      | 134 |
| 百八  | 風吹けば……………    | 140 |
| 百九  | 人こそあだに……………  | 142 |
| 百十  | 思ひあまり……………   | 143 |
| 百十一 | まだ見ぬ人を……………  | 144 |

|      |                          |     |
|------|--------------------------|-----|
| 百十二  | 須磨のあまの                   | 147 |
| 百十三  | ながからぬ                    | 149 |
| 百十四  | 翁さび <small>おきな</small>   | 150 |
| 百十五  | おきのゐて                    | 155 |
| 百十六  | はまびさし                    | 157 |
| 百十七  | 岸の姫松 <small>ひめまつ</small> | 159 |
| 百十八  | 玉かづら                     | 162 |
| 百十九  | 形見こそ                     | 164 |
| 百二十  | 筑摩 <small>つぐま</small> の祭 | 165 |
| 百二十一 | 鶯 <small>うぐひす</small> の  | 168 |
| 百二十二 | 井手の玉水                    | 170 |
| 百二十三 | 年を経て                     | 171 |
| 百二十四 | 思ふこと                     | 173 |
| 百二十五 | つひにゆく                    | 175 |

伝為氏本より

伝為氏本卷末所載の小式部内侍本より

|    |                           |     |
|----|---------------------------|-----|
| 一  | 降りくらし                     | 178 |
| 二  | せがゐの水を                    | 179 |
| 三  | かつ見る人や                    | 182 |
| 四  | 雲ゐの峰し                     | 183 |
| 五  | 中空 <small>なかぞら</small> に  | 186 |
| 六  | 今はとて                      | 187 |
| 七  | 春の日の                      | 190 |
| 八  | 玉くしげ                      | 192 |
| 九  | 蒔 <small>ま</small> きしなでしこ | 193 |
| 十  | 月しあれば                     | 195 |
| 十一 | むば玉の                      | 197 |
| 十二 | 夕月夜 <small>ゆふづきよ</small>  | 198 |
| 十三 | 虫の音 <small>ね</small> や    | 200 |
| 十四 | いざ桜                       | 202 |

|       |                               |     |
|-------|-------------------------------|-----|
| 十五    | 小夜 <small>こよ</small> ふけて…………… | 206 |
| 十六    | 太刀のをがはの……………                  | 207 |
| 谷森本より |                               |     |

|    |            |     |
|----|------------|-----|
| 十七 | 思ひつつ……………  | 209 |
| 十八 | あきの夜も…………… | 210 |

|                  |     |
|------------------|-----|
| 伊勢物語所収和歌一覧表…………… | 212 |
| 解説……………          | 230 |

# 《伊勢物語(上)》

|   |              |
|---|--------------|
| 一 | しのぶのみだれ…………… |
| 二 | ながめくらしつ…………… |
| 三 | むぐらの宿に……………  |
| 四 | 月やあらぬ……………   |
| 五 | わが通ひ路の……………  |
| 六 | 白玉か……………     |

七 かへる浪かな  
八 あさまの嶽たけに  
九 から衣ころも  
十 たのむの雁も  
十一 忘るなよ  
十二 武蔵野は  
十三 むさし鐙あぶみ  
十四 桑子にぞ  
十五 しのぶ山  
十六 手を折りて  
十七 あだなりと  
十八 くれなるに  
十九 あまぐもの  
二十 君がため  
二十一 いでていなば  
二十二 憂うれきながら  
二十三 筒井つづみつの

- 二四 あらたまの  
二五 秋の野に  
二六 もろこし船の  
二七 我ばかり  
二八 などてかく  
二九 花にあかぬ  
三十 あふことは  
三一 忘草<sup>わすれくさ</sup>  
三二 しづのをだまき  
三三 満ちくる潮<sup>うしほ</sup>の  
三四 いへばえに  
三五 玉の緒<sup>を</sup>を  
三六 玉かづら  
三七 下紐<sup>したひも</sup>とくな  
三八 君により  
三九 ともし消<sup>け</sup>ち  
四十 出<sup>い</sup>でていなば

四十一 紫むらさきの

四十二 出いでて来こし

四十三 ほととぎす

四十四 出いでてゆく

四十五 ゆく螢はたる

四十六 目かるとも

四十七 大幣おほぬきの

四十八 今ぞ知る

四十九 うら若み

五十 鳥の子を

五十一 植ゑし植ゑば

五十二 あやめ刈り

五十三 いかでかは

五十四 行きやらぬ

五十五 をりふしごとに

五十六 わが袖さそは

五十七 恋ひわびぬ

五八 荒れにけり

五九 住みわびぬ

六〇 五月まつ

六一 染河を

六二 いにしへの

六三 つくも髪

六四 玉すだれ

六五 忍ぶることぞ

六六 難波津を

六七 花の林を

六八 すみよしの浜

六九 君や来し

七十 あまの釣舟

## 凡 例

- 一、底本には流布している善本として、天福本系統の三条西家旧藏本を用いた。
- 一、底本にない章段で他本に見られるものを巻末に付載した。
- 一、底本はできるだけ忠実に活字にし、段落、改行の体裁、送り仮名等原則として底本に従ったが、読解の便宜をはかり、高等国語教育の表記法を混乱させないために、「歴史的かなづかい」「普通の用字」「一般的な送り仮名」に従った。
- 一、反復記号は用いない。
- 一、底本にはないが濁点、句読点、括弧<sup>かっこ</sup>を付した。また、歌に通し番号を付した。
- 一、語意とともに文法、語法に留意して注を付した。
- 一、解釈が恣意<sup>しゐい</sup>に流れないと同時に、何を言っているのか文意の機微<sup>きび</sup>が明らかに通じるように留意した。そのため（ ）を付して語を補ったところがある。
- 一、最後の補説では、歌集における歌との比較等にもふれた。
- 一、異説、未詳のすべてについても一応の考察を加えて参考に供した。



伊勢物語  
(下)